

Computer Report

Vol. 54 No. 12 1 2月号 (通巻 723号)

はじめの言葉

■第二次安倍内閣が発足するや二人の閣僚が辞任した。古くからある「政治とカネ」の問題からである。団扇らしきものの配布で辞めた人には、何で私かという本音が見えていたし、辞任に至らなかつただけの灰色閣僚にも、反省心などないだろう。背景にあるのは、政治団体という、摩訶不思議な団体組織の存在であり、後押しである。この得体の知れない活動組織こそ、平安時代の貴族／寺社荘園を彷彿させる平成の御代の荘園組織である。

■ちなみに、この平成荘園には、所得税も相続税もない。収支報告義務はあるらしいが、まったくのザル法義務で、修正したの、単なる記入ミスだの言い訳で済んでしまう。納税の義務はないが、ひたすら所得権限だけが保証されている絶対権力団体である。おまけに、政治資金という名目での公的基金までせしめている。まさに至れり尽くせりの、平安時代の貴族荘園そのものである。二世／三世／四世議員排出のメカニズム母体である

■小渕前経産相のケースもそうだが、議員本人よりも強権力を持つ組織支配者／大番頭によって管理運営されているのも、一般国民の常識感覚からすると、一層気味の悪さを感じさせる。しかも、その大番頭の配下には、さらに蔓延る様々なタカリ軍団の存在も伺い知れる。文字通り、何層かからなる複合的な利益集団だということも推し量れる。この平成荘園が、またもやその力量を発揮する機会が訪れた。衆院の年末選挙である。

■おそらく、第二次安倍内閣で問われた閣僚資質、その任命責任など、うやむやのまま、歯牙にもかけられないだろう。そもそも第一、今回の衆院解散にはまったく大義がない。問題なのは、国民の信を問うような政治決断をしてもいないのに、むしろ正反対に、将来に向けて「やりたいほうだい」を求める「めくら判要求選挙」であることだ。前回選挙の議員定数は正公約の完全無視、消費税増税の使途無視など、総括すらしていない。

■まったく国民無視選挙としか言いようがないが、こうした無謀な選挙をやれるのも、各候補には、何らかの形で平成荘園が控えているからであろう。観劇会から盆踊り団扇の間には、ミカン狩り／モミジ狩りツアーなど各種荘園主催イベントが目白押しのはずである。議員を出してなんぼの荘園の存在こそ、日本政治腐敗の元凶だと言えよう。税務監査も及ばない荘園組織を解体しない限り、国民不在選挙はなくなるだろう。

■もちろん問題は政治団体荘園の側だけではない。その存在を受け入れミカン／モミジにかこつけて狩り取られてしまっている選挙民の民度にも問題はある。民主主義が日本で成熟しないのも、目先の利に動かされ易い国民の認知能力にも大いに根拠がある。形だけは公正な選挙制度を持っていても、国の主権者たる選挙民に、それを形骸化させてしまう弱さがあつたのでは、絵に描いた民主主義でしかない。

■周辺隣国の人権問題が、様々な形で問われている。北朝鮮による日本人拉致被害者の帰国にはメドも立っていない。日本の領海に中国船団が不正侵入し、我が国資源を略奪している。まさに海賊行為であり、戦争挑発行為である。外患は後を絶たない。良いも悪いも、最早師走、新年もすぐそこである。どういう年を迎えるか、この師走選挙にかかっている。内憂外患に対処するにも、国を固めるにも誤魔化しがあつてはならない。(藤見)